

令和7年産 品質良好 大津カライモ出番です！

収穫最盛期を前に9月22日と24日に坪掘り生育調査を行い、26日に品評会と作柄検討会を行いました。生育状況は良好、昨年以上の収穫量も見込まれ、当番出荷などに取り組みながら販売高4億円を目指します。



坪掘り生育調査

◆坪掘りは各支部に分かれ、部会員一人ひとりの圃場(ほじょう)を回り、1本の畝一坪(約4メートル)を掘り取り、丁寧に調査しました。掘り取ったイモは洗浄後、支部代表を選定し品評会へ持ち寄りました。

やや小玉での収穫開始を見込んでいましたが肥大は進み、昨年よりも収量は増える見通しです。適期収穫に努め、需要期に備えます。収穫作業は8月下旬から始まり、10月に最盛期となり、11月下旬まで行います。

◆品評会では役員が、色や形、収量、大きさなどを見比べ最優秀賞を選びました。

〈最優秀賞〉

高系14号「ほりだし君」の部: 古庄 祐輔
「べにはるか」の部: 内村 俊治



品評会

すいか部会 抑制スイカ出荷

西宮農センター 山野 邦彦

抑制スイカ「羅皇ガスweet」約1万6000玉 ハロウィンスイカ「ひときわ」約4000玉

すいか部会が合志市とタイアップして取り組む「ハロウィンスイカ」を10月3日から29日まで出荷し、抑制スイカ「羅皇ガスweet」を10月末まで出荷しました。

◆7月以降の真夏に行う栽培は難しく、近年の異常気象も影響する中、管理には生産者の技術と努力が求められます。長年培ったスイカ栽培の知恵を活かし、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。今年は、部会員60戸のうち、抑制スイカは14戸、ハロウィンスイカは6戸で取り組みました。難しい栽培環境にありますが、甘さはありながらも上品で、さっぱりとした食感と食味に市場からの引き合いも増えています。



朝日新聞の取材に対応する
安武部会長



10月限定「ハロウィンスイカ」



種の少ない品種「ひときわ」



合志・泗水支部祈願祭



西合志支部祈願祭

◆9月からは来年春のスイカに向けて、土づくり、苗植えなどの準備や管理作業も始まっています。部会では、作業の安全とスイカの豊作を願い地元の神社で祈願祭を行いました。来年もおいしいスイカをお届けいたします。